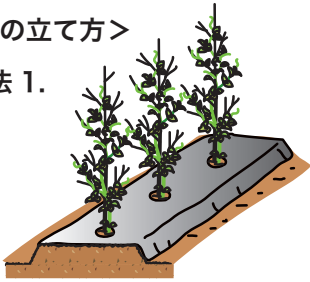


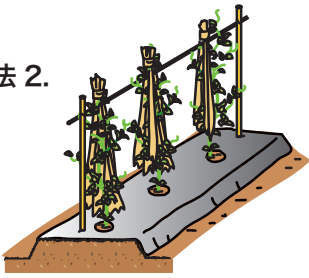
<支柱の立て方>

方法 1.



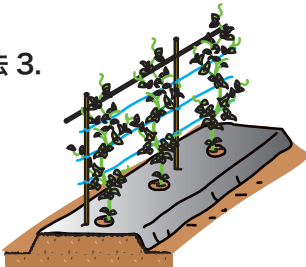
つるが絡み付きやすい木の枝やササ竹など。小枝の多い物なら最良

方法 2.



支柱を立て稲わらをつる

方法 3.



支柱を立て 2~3 段ポリひもを張る

薬剤散布



エンドウの起源は古代ギリシャ、ローマ時代にさかのぼる古い歴史栽培が始まったのは江戸時代からのようです。
カロテンの含有量が多く、緑黄色野菜に位置付けられるほど。ビタミンC、食物繊維も豊富に含まれています。
エンドウの仲間にはさやと豆の両方を食べるスナップエンドウ、実を利用する実エンドウなどがあります。



連作障害が出やすい代表的な野菜なので、少なくとも3〜4年はエンドウを栽培したことの無い畑を選びましょう。プランターでの栽培にも向きません。花を觀賞しながら楽しむのもよいでしょう。
サヤエンドウを上手に育てる3つのポイントは、まきどき選びと、防風防寒対策、そして支柱をしっかりと立てることです。
種まきの適期は10月下旬ごろです。耐寒性は本葉2〜3枚のころが最も強いですが、花が咲くころは最も弱くなりますので、寒い地方では11月上旬ぐらいいまで、遅らせた方がよいです。
エンドウのつるは中空なので、風で折れやすく、特に寒風に当たると枯死株が出ます。霜害が出やすい畑では厳寒期に入る前に、風上側に防風ネットを張るか、葉上にべ

た掛け資材で寒風から守りましょう。
春先になりつるが伸び始めたころに、遅れずに支柱をしっかりと立てましょう。つるが絡み付きやすい木の枝が入手できれば一番良いですが、それがなければ木ぐいを打ち横竹を渡して、稲わらを小束にしてつるすのもよいでしょう。それらが入手できない場合は、果菜類用の長さ2m内外の支柱材を株ごとに立て、横に2〜3段プラスチックひもを取り付けるとよいです。
その他、栽培に当たって留意することは、うね面には黒色ポリフィルムをマルチして地温上昇、雑草防除を図ること、ハモグリバエの幼虫の食害から守るために、発生初期に適用薬剤を散布して防除すること、などです。

肥料・農薬の紹介

適用拡大!

アトトリ粒 (1kg)
(水稲中・後期除草剤)



初期除草剤や一発処理除草剤で取りこぼしたり、後期に発生した多年生雑草の防除に有効です。

1成分で適用雑草に高い効果を示す中・後期除草剤のため、雑草が残った場合にぜひ、お試しください。
バサグラン粒剤の「落水散布」と違い、湛水状態での散布が可能です。そのため、雑草の生育状況に合わせて、幅広い時期で散布できます。おすすめ除草剤として、「平成28年産 米・麦・大豆栽培ごよみ」に掲載していますので、ご覧ください。

【適用拡大後の登録内容】

●作物名「移植水稲」→適用雑草名…ノビエ・ミスガヤツリ・ウリカワ・ヒルムシロ・セリ・オモダカ・クログワイ・シズイ・コウキヤガラ

●使用時期→移植後20日(稲5葉期以降)〜ノビエ4葉期 ただし、収穫45日前まで

※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。